



水 稲 管 理 情 報

早生穂肥編

中干し後～出穂まで1か月の飽水管理 穂肥の適期・適量施用で、収量・品質を確保

令和7年6月
J A 志 賀
能登南部営農推進協議会

1 生育概況と当面の管理

- 6月18日の生育調査の結果、前年と比較して草丈はコシヒカリ及びゆめみづほでやや長く、ひやくまん穀はやや短い状態です。茎数はコシヒカリではやや多く、ゆめみづほ及びひやくまん穀では多い結果となっております。
- 1か月予報(6/5発表)では前年同様、今後も暑くなる予報となっており生育が早まる可能性があります。中干しは、早生品種では6月25日頃まで、コシヒカリでは7月5日頃まで、ひやくまん穀では7月15日頃まで継続し、稲体の健全化を図りましょう。
- 今後は、①「中干し終了後の飽水管理」、②「適切な穂肥の施用」、③「3回の仕上げ防除の徹底」に努めて下さい。

2 中干し終了後の水管理 [出穂まで1か月間の飽水管理]

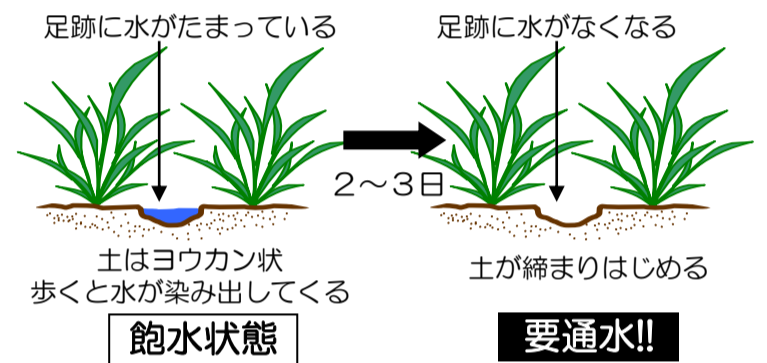
・登熟期間の水稻の活力を維持するためには、根を健全に保つことが重要です。そのためには、適期中干しに加え、中干し以降の水管理が大きく影響します。きめ細やかな水管理により登熟を向上させ、未熟粒の発生を防ぎましょう。

飽水管理の徹底

幼穂形成期(早生品種6月25日、コシヒカリ7月5日、ひやくまん穀7月15日)以降は、新しい根の発生が少なくなるため、中干し終了後は2～3日間隔を目安に通水し、飽水状態(右図)を保ち、根の活力維持を図りましょう。

- 通水は出来るだけ朝方か夕方に行いましょう(水田内の温度を上げない)。
- 集落や地域ぐるみで、計画的な水利用に努めましょう。

【飽水管理】とは・・・ほ場表面に水はないが、足を踏み入ると水が染み出てくるような水分状態を維持する水管理のことです。



※ 台風通過後のフェーン等による異常高温にさらされる場合は一時的に湛水し、稲体を守りましょう。現象終了後は速やかに飽水管理に戻して下さい。

3 出穂予測と穂肥時期の目安 [適切な穂肥の施用で登熟向上]

・生育観測の結果から予想される「ゆめみづほ」の出穂期は7月19日～21日頃で、平年より3日程度早いです。

基肥一発肥料体系での追加穂肥

・基肥一発肥料では、基本的には追肥の必要はありませんが、本年は8月までの気温は平年より高いと予報(5/20発表)されており、①登熟期の高温による栄養凋落の防止 と ②収量の向上のため、以下を目安に上乘せ追肥に取り組んでみましょう。

品 種 名	追加穂肥の判断		追加穂肥の施用		
	判断時期(出穂前日数)	判断基準(葉色)	施用時期(出穂前日数)	肥料名	施用量
ゆめみづほ	7月4日頃(15日前) (幼穂長40mm・葉耳間長-10cm)	葉色板5.0未満 (葉色が濃い場合は施用しない)	7月9日頃(10日前) (葉耳間長±0cm)	BB追肥 550号	7～10kg/10a

分施肥体系での穂肥

- 生育過剰なほ場や葉色が濃いほ場では、1回目の穂肥時期は遅らせず、量のみを減らして施用して下さい。
 - 1回目穂肥が施用出来なかった場合でも、2回目の時期の穂肥は必ず施用して下さい(稲体の消耗を防ぎ登熟向上を図る)。
- <注意> 追肥を1回目の時期の1回のみで終わらせないこと

品 種 名	出穂予想	回数	肥料名	時期(出穂前日数)	施用量	備 考
ゆめみづほ	7月19日	1回目	BB追肥550号	6月26日頃(23日前)	15kg/10a	1回目の穂肥施用の基準は、幼穂長1mm、葉色板4.0
		2回目	BB追肥550号	7月9日頃(10日前)	20kg/10a	2回目の穂肥施用時期は、葉耳間長±0cm

※葉色が濃い場合(葉色板4.0以上)は穂肥1回目の施用量を3割程度減らして施用して下さい。

4 斑点米の発生防止対策


〔 畦畔除草・3回防除で収量・品質確保 〕

近年中能登管内で斑点米カメムシが増加しており、**昨年は斑点米による落等が最も多くなりました。特に、大型で飛翔性のカメムシが多発しており、斑点米だけではなく、不稔にさせて減収させる要因**としても考えられています。そのため、**畦畔除草と3回の仕上げ防除**を実施し、収量も品質も良いお米に仕上げましょう。

ホソハリカメムシ

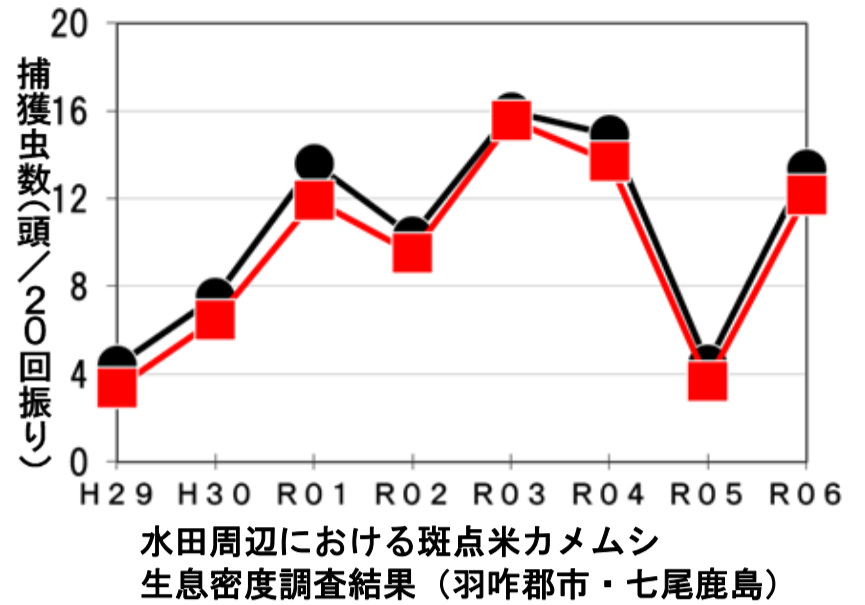


クモヘリカメムシ



成虫は吸汁力が強く、**出穂 14 日後までは不稔粒等を発生させ、減収につながります。**出穂 14 日以降は米粒が固くなるため、不稔ではなく斑点米を助長します。





◆ 除草 ◆

(1) 畦畔除草

斑点米カメムシの生息密度を下げるため、7月10日頃までに地域・集落ぐるみで**畦畔や農道等の一斉仕上げ除草**を実施しましょう。

◎ 7月中旬以降の除草は、斑点米カメムシを本田に追い込むこととなるので、基本的には行わないで下さい。

(※頻繁に除草している場合に限り、継続除草は可能。) **やむを得ず除草する場合は、基幹防除の直前に行って下さい。**

(2) 本田除草

本田に雑草の取りこぼしがあるとカメムシを呼び込むこととなるので、収穫前日数に注意しながら本田除草剤を施用しましょう。

※ 早生品種の目安 : 収穫 30 日前まで(クリンチャー等)→7月16日頃まで 収穫 45 日前まで(アトリ等)→7月1日頃まで

◆ 3回防除 ◆

基幹防除では、**出穂始めと、出穂期の7日後(穂揃期)、14日後(傾穂期)の3回防除が斑点米カメムシの被害防止に重要**です。

①粉剤体系 : 粉剤防除では防除効果を高めるため、風の無い時間帯で、散布後3~4時間は降雨がない日に散布して下さい。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	トレバリダビーム粉剤 DL 【2成分】	3~4kg	7月15日~18日頃	出穂始め防除
2回目	いもち病、カメムシ類	ラブサイドキラップ粉剤 DL 【2成分】	3~4kg	7月26日~29日頃	出穂7~10日後(穂揃期)
3回目	カメムシ類	キラップ粉剤 DL 【1成分】	3~4kg	8月2日~5日頃	出穂14~17日後(傾穂期)

化学合成農薬成分の数です。

②粒剤体系 : 粒剤防除は一人で散布でき、粉剤のような飛散(ドリフト)が少ないため、市街地等でも散布ができます。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	イモチエーススタークル粒剤 またはワイドパンチ豆つぶ 【2成分】	3kg 250g	7月7日~9日頃	出穂10~12日前頃 (散布後4~5日の湛水)
2回目	カメムシ類	キラップ粒剤 またはスタークル豆つぶ 【1成分】	3kg 250g	7月22日~26日頃	出穂3~7日後(穂揃期) (散布後4~5日の湛水)

③液剤体系 : 液剤防除は散布に労力はかかりますが、安価なため、コストを抑えることができます。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	ビームエイトレボソブル 【2成分】 + バリダシン液剤5 【0成分】	650倍・100~150L 1000倍・60~150L	7月15日~18日頃	出穂始め防除
2回目	カメムシ類	キラップフロアブル 【1成分】	1000~2000倍 ・60~200L	7月26日~29日頃	出穂期7~10日後(穂揃期)
3回目	カメムシ類	キラップフロアブル 【1成分】	1000~2000倍 ・60~200L	8月2日~5日頃	出穂期14~17日後(傾穂期)

~農作業中の熱中症に気を付けましょう~

暑さに慣れていないと熱中症になる危険性が高まります。

こまめな水分補給・休憩や通気性の良い衣服の着用など、対策を行い、日中の暑さに備えましょう!

